

学習塾

目次

要 約	2
はじめに	4
1. 塾通いの背景	5
●学校の勉強	5
●家庭での様子	8
●子ども自身	9
2. 塾やおけいごと通いの実態	12
●学習塾に行っている子	12
●塾のタイプ	15
●おけいごと	18
3. 子どもにとっての塾	21
●塾に行く理由・行かない理由	21
●子どもの学習塾観	25
●塾をやめたら(塾に行ったら)	28
4. 塾の功罪	31
●塾での勉強	31
●塾での気持ち	34
●通塾による変化	36
5. 学校と塾	38
●学校と塾の様子	38
●学校の勉強・塾の勉強	41
●学校の先生・塾の先生	41
地球社会の子どもたち ⑤ ソウル—その2 ドクソシル	深谷 昌志 46
資料1 調査票見本	50
資料2 学年・性別集計表	59

※おことわり：本文中に使用した写真は、本文・テーマとは一切関係ありません。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>					
<input type="checkbox"/>	調	査	レ	ポ	ー	ト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	学	習	塾	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	要	約			<input type="checkbox"/>		

放送大学教授 深谷昌志
東京学芸大学大学院生 森川浩珠

1. 塾通いをしている割合

4年=30%、5年=34%、6年=39%で、これは塾へ行ったが今はやめている子を含めると、それぞれ45%、49%、57%となる。(図10)



2. 学習塾のタイプ

タイプ別に見ると、補習塾59%、進学塾21%、その他20%の構成になるが(図12)、進学塾は成績のよい子を集め(図13)、クラス分けをした授業を行っている。(図17)

3. 通塾の理由

学校の勉強がわかるようになりたいから、通塾しているという。(図26)



4. 塾についての感じ

塾へ行っている子どもの方が、お金がかかってたいへんだが中学生になっても塾へ行くと答えている。(図32)

●調査概要

1. 調査主題 学習塾
2. 調査視点 多くの子どもたちが塾に通う背景と子どもたちにとって塾とはどのような存在であるのかを探りつつ、学校と塾の間

で揺れる子どもたちにとって、双方がどのような意味をもつのかを考えていきたい。

3. 調査項目 通塾のきっかけ、塾を続ける(行かない)理由、もし塾をやめたら、塾と学校での勉強の理解度、塾に行っているときの気持ち、通塾による変化、学校の先生と

5. 塾での勉強

「だいたいわかる」が50%で、「全部わかる」を含めると59%になる。しかし、わからないこともある子が4割に達する。(図36)



6. 通塾による変化

「勉強がわかるようになった」という子は67%に達するが、成績はそれほど上がっていない。(図43)

7. 学校と塾

学習塾と比べると、学校の方が友だちが多く、楽しく、自由な感じがするという。(図45)

8. 学校の先生と塾の先生

全体として見ると、塾の先生より学校の先生の方が一生懸命に教えてくれるし、心が優しく、気楽に話しやすいという。(図49)

まとめ

子どもたちの36%が塾通いをしている。そして、塾通いをしたからといって、子どもたちの生活が大きく乱れることはないように見える。しかし、子どもたちは学習塾より学校に高い評価を与えており、学習塾を学校を補う機関として位置づけている。

Q
?
!



塾の先生との比較など。

4. 調査時期 昭和63年1月
5. 調査対象 都下および近郊都市の小学校
4・5・6年生1,481サンプル
6. 調査方法 学校通しによる質問紙調査

7. サンプル数 (人)

学年/性	男子	女子	計
4年	168	150	318
5年	264	256	520
6年	322	321	643
計	754	727	1,481

はじめに



学習塾へ通う子どもの姿はすっかりなじみ深いものとなった。小学生のうちから、塾へ通って勉強する必要はない。学校から帰ってから、また塾へ通うので、生活のリズムが崩れる。特に、食事が乱れるので、健康面での不安がつのる。

さらにいえば、小学高学年生の3分の1の子が塾通いをしているので、自分が塾へ行っているときは友だちが暇、それに対し、自分がのんびりできる日は友だちが塾通いをするというように、友だちとのスケジュールが異なってしまう。

その結果、塾通いがきっかけとなって、友だちとつき合う時間を持てなくなり、そして子どもたちの仲間集団が消滅する。

欧米やアジアの国を訪れると、子どもたちの遊びたわむれる姿に接する。そして、遊び仲間が子どもの人間形成に大きな働きを果たすのは、よく知られた通りであろう。ギャング集団とよばれる遊び仲間の働きは、

- ① 体が丈夫になる
- ② さまざまな直接体験を積む
- ③ 友だちづき合いの仕方を学ぶ
- ④ やる気が育つ
- ⑤ 精神的に安定する
- ⑥ 社会的な知性が伸びる
- ⑦ 自分に自信を持てるようになる

などがあげられよう。いわば、群れ型の遊びは、子どもの人間形成にとって、総合ビタミン剤のように多方面にわたって有効な働きをする。

もちろん、遊び仲間は子どもたちが群らあって、時として、悪い遊びに興ずる。というより、子どもの遊びは悪の雰囲気をただよわ

せる。つまり、遊びは悪の文化を伴っているが、それを上回るほどの効用を、子どもたちの人間形成にもたらしているのである。

つまり、遊び仲間は、望ましい知識や技能を教師を通して伝達する学校と並んで、子どもの人間形成に、両輪のような役割を果たしてきた。そして、すでにふれたように、子どもたちの塾通いは、そうした遊び仲間の喪失をもたらしている。

それだけに塾通いの是非は、子どもの学習という面を越えて、子どもたちの人間形成トータルとの関連でとらえる必要があろう。

もちろん多くの親たちも、こうした塾通いの弊害は熟知していよう。しかし、子どもたちの将来を考えると、少しでも学力をつけておきたい。遊び仲間が大事だというのはわかるが、それは所詮、遊びにすぎない。それに、塾通いは週に2～3回、それも1時間半くらいなのであるから、その他の日に遊ばせよう。そう考えて、子どもの塾通いを認めているであろう。

本当の意味での勉強を必要とするのは、高校生や大学生で、小学生のうち、体をきたえ、友だちと遊び、基礎的な学力をつけておけばよい。そうした指摘は正論であろうが、それはたてまえとして語られ、子どもたちの塾通いは、いっこうに下火になるきざしを見せていない。

それだけに、子どもたちはどんな思いで学習塾へ通い、そして、塾通いの効果をどう評価しているのか。学習塾通いをしているのは子どもたちなので、その子どもたちに塾通いについての気持ちを尋ねてみたのが、本レポートである。

1. 塾通いの背景



◆ 学校の勉強 ◆

子どもたちが学習塾やおけいこごとに通うようになるには、学校や家庭、そして子ども自身のことなどのいろいろなことが複雑に関係していよう。そこでまず初めに、その中でも特に大きな原因であろうと考えられる学校での勉強について見てみよう。

図1は、学校の授業をどれくらい理解しているかを尋ねた結果である。「ときどきわからない」という中間層が半数を占めているが、「いつもわからない」「わからないことが多い」と合わせると63%となり、「だいたいわかる」(32%)、「全部わかる」(5%)と答えた子どもを大きく上回っている。もちろん、授業中に先生の言っていることが全てわかるなどということは不可能に近いことであろうが、たとえ「ときどき」にしろ、このわからない部分が多い。そうした状況が学習塾でわ

からない部分を補おうということになるのであろうか。

また子どもたちが、学校での自分の成績をどのくらいだと評価しているかを表したのが図2である。やはりまん中の「中くらい」意識が最も高い(45%)が、全体的に見ると「上の方」と「中の上」よりも、「中の下」や「下の方」と答えた子が多く、やや下の方に傾いている。

そして中学受験については図3に示したように、全体では3分の1が「わからない」と答えているが、「きっと・たぶんする」と肯定している中学受験派は14%で、「きっと・たぶんしない」の52%に比べるとまだまだ少数派にとどまっている。学年別に見ると、6年生になると「わからない」と答える子が減り(19%)、「きっと・たぶんしない」子が7

割で、実際に受験をするのは1割に満たない状況である。

さらに、将来どの学校まで進みたいかという進学志望は、図4のように、小学生にとってはまだばく然とした問題であるためか、4

人に1人は「わからない」と答えているものの、「中学まででよい」というのはさすがに2%しかおらず、半数弱が大学まで進みたいと答えている。

図1 学校の勉強の理解度

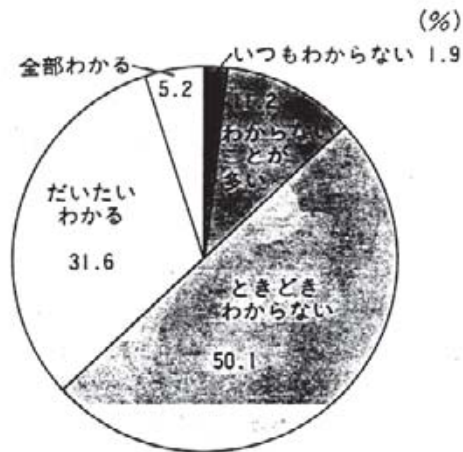


図2 学校の成績

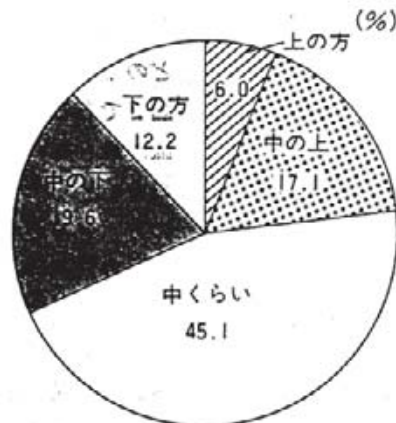


図3 中学受験

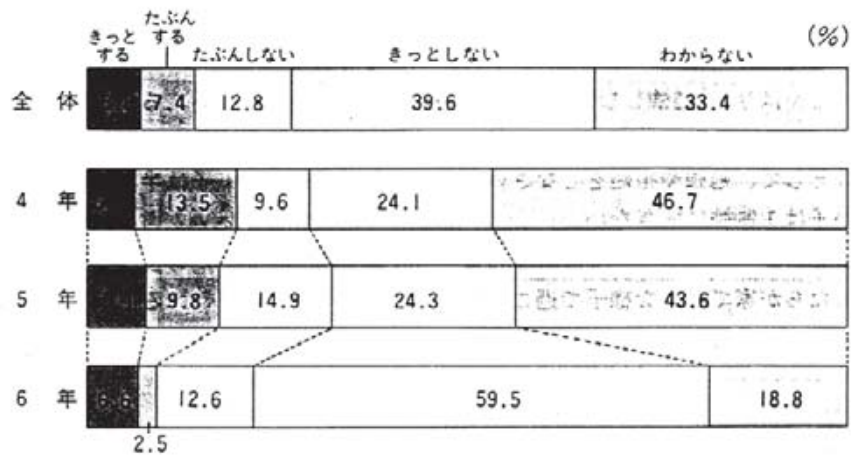


図4 進学希望



◆ 家庭での様子 ◆

さて次に、子どもたちの家での様子に目を向けてみよう。まず図5は、母親たちが子どもにどんなしつけをしているかを表したものである。子どもたちがふだん母親に一番よく言われていることは、この中では「はやく寝なさい」ということであるが、「よく遊びなさい」とか「勉強だけがすべてでない」ということよりもやはり、「勉強しなさい」「宿題をやりなさい」といったことの方がよく言われている。そして、勉強や宿題をしなさいと言われない子は1割強にすぎない。

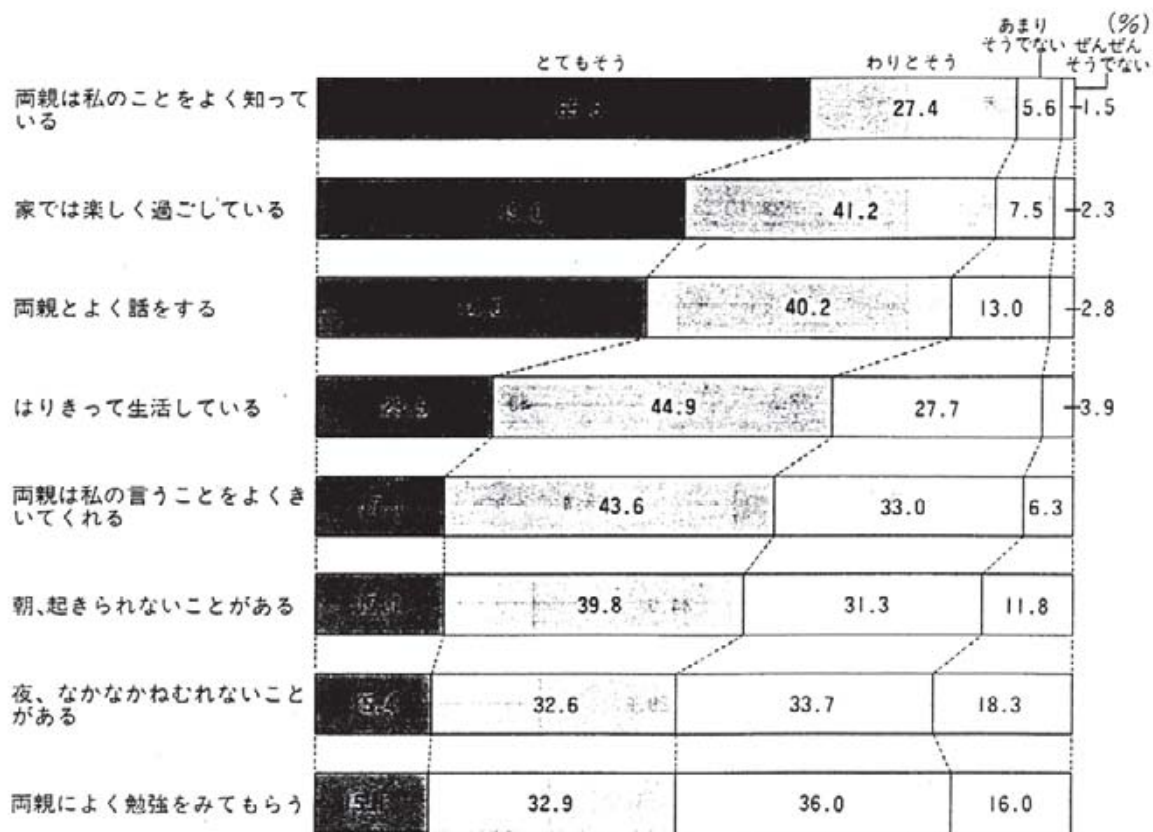
そして、そのように母親から言われているが、子どもたちが家でどんな様子で過ごしているのかというと、図6のように、「両親は

自分のことをよく知っていて」(肯定率93%)、「話もよくし」(84%)、「自分の言うこともよく聞いてくれる」(61%)ため、「家では楽しく過ごしている」(90%)、「はりきって生活している」(68%)ようである。しかし「朝、起きられないことがある」(57%)とか「夜、ねむれないことがある」(48%)というような体の不調感を訴える子も少なくないのが気になるところである。また「両親によく勉強をみてもらう」子は半数以下となっており、「勉強しなさい」と言うわりには親が自ら勉強を教えることがあまりないという状況も、塾通いに拍車をかける原因なのではないだろうか。

図5 母親のしつけ

	(%)			
	よく言う	たまに言う	あまり言わない	ぜんぜん言わない
はやく寝なさい	55.1	26.7	10.6	7.6
勉強しなさい	34.0	35.7	22.2	11.1
宿題をやりなさい	32.8	31.8	22.3	13.1
勉強しないと将来困る	17.7	23.1	31.1	28.1
勉強しないと、いい学校に入れない	15.3	25.0	28.8	30.4
よく遊びなさい	2.9	23.6	38.1	25.4
勉強だけがすべてではない	4.0	22.1	32.1	34.8

図6 家での様子



◆ 子ども自身 ◆

学校や家で、そのように勉強に囲まれながら生活している現代の子どもたちには、どんな子が多いのだろうか。

「自分はどんな子だと思いますか」として、自己像を尋ねた結果が図7である。「体が丈夫」「よく遊ぶ」「友だちが多い」「おもしろい」といったように、はつらつとした子どもらしいイメージのものに反応が高く、「まじめ」「おとなしい」「リーダー的」「勉強ができる」というような優等生タイプと自己認識している子は少ない。

そして図8は、勉強を含めたいろいろな

ものの価値観について聞いたものである。4分の3以上の子が「いじめられている子を見ると、助けてあげたい」とか、「お金持ちになれなくても、何か人のためになる仕事をしたい」と答えているのを見ると、何かほっとするものを感じる。また「子どものうちは勉強しなければならない」ということにも7割近くが「そう思う」と言っていて、逆に「勉強は、何のためにするのかわからない」という子は少ない(18%)ように、今の子どもたちにとって、勉強はしなくてはならないものということが自明の理となっているようである。

図7 自分はどんな子か

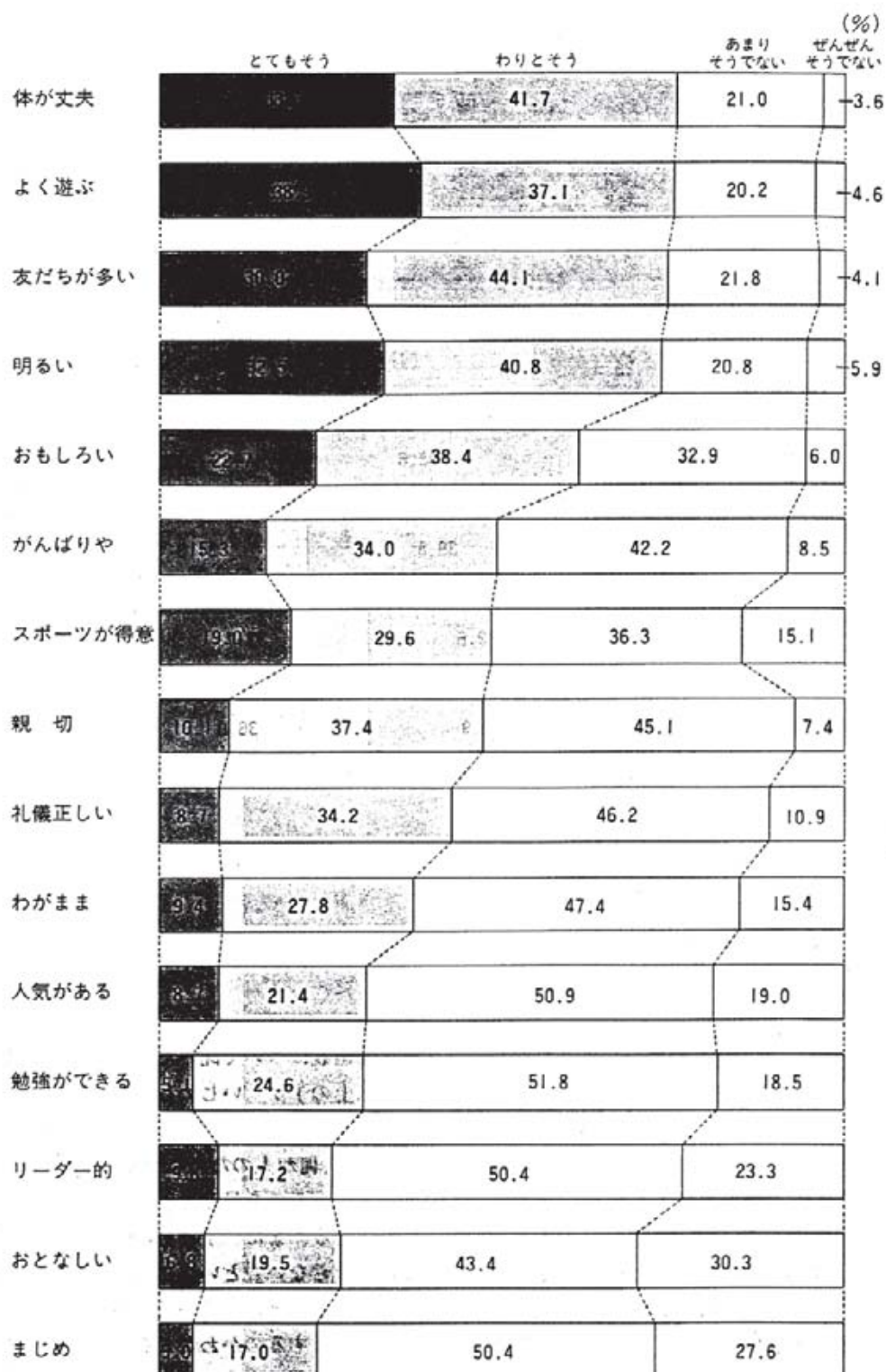
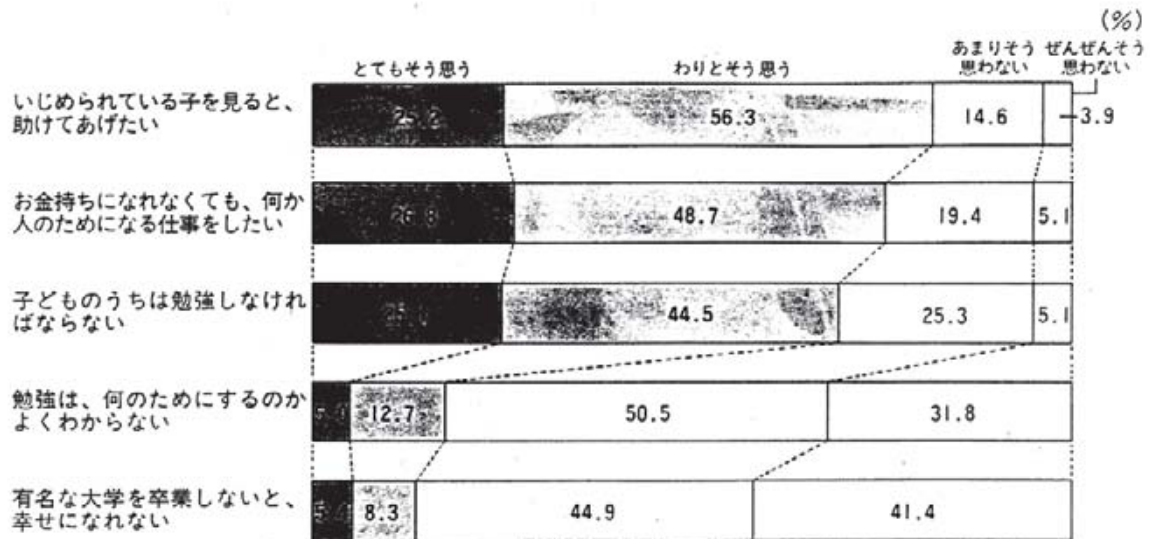


図8 子どもの価値観



2. 塾・おけいごとと通いの実態



◆◆ 学習塾に行っている子 ◆◆

それでは実際に学習塾やおけいごとに通っている子は、どのくらいいるのだろうか。

まず算数や国語などの勉強だけを教える、いわゆる学習塾だけについて見ると、図9に示したように「現在塾に行っている」のは本サンプル4・5・6年生1,481人のうち、35.6%と3分の1を超え、「前に行っていたが、やめてしまって今は行っていない」子が15.7%、そして「1度も塾に行ったことのない」子は半数以下である。学年別、性別で見ると図10にあるように、学年が上がるにつれて通塾率も高くなり、6年生では56.5%が通塾経験者である。男女差はさほどないが、男子より女子の方が「今行っている」子が多く、男子の方にやめてしまった子が多いのがわかる。

さて次に、全体の36%にあたるこの塾通いの子どもたちは、塾に通っていない子とどの

ような違いが見られるであろうか。逆に言えば、どういう子が塾に行っているのかを明らかにしたいと思う。

まず、当然関係していると思われるのが学校の成績であるが、図11のように、塾に通っている子は通っていない子に比べて、やや成績がよい傾向にある。もちろん、塾に行ったから成績が上がったということも考えられるが、もともと塾に行っていない子よりも行っている子の方が、学校の成績がよいのかもしれない。

また中学受験をするかどうか、表1のように、やはり塾に行っている子の方に中学を受ける子が多い。

さらに気になる母親のしつけであるが、これも表2の通り、塾通いの子や塾経験のある子どもの母親の方が、「勉強しなさい」と子

どもたちによく言っていることがわかる。
 このように比較的母親のしつけがきびしく、
 中学校を受験することも考えている、わりと

成績のよいタイプの子が塾に行っているとい
 えるが、その差はそれほど大きいものでなか
 った。

図9 通塾状況



図10 学年・男女別通塾状況

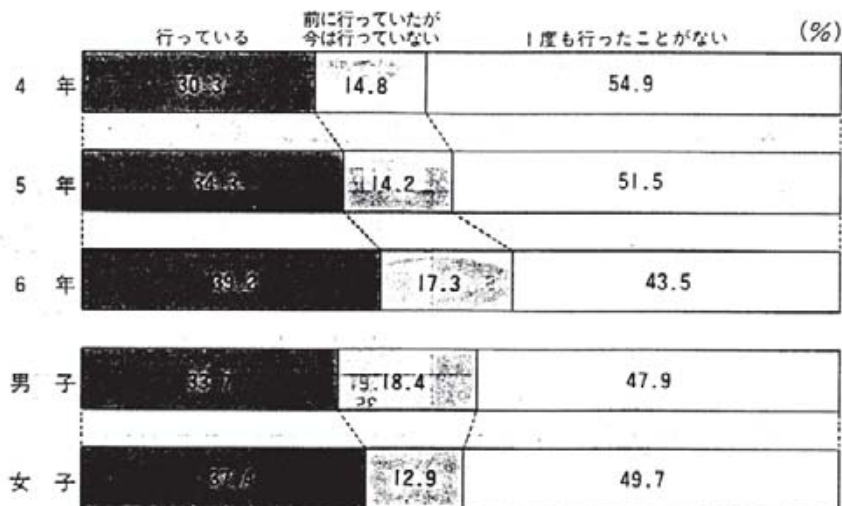


図11 通塾状況×学校の成績

	(%)				
	上の方	中の上	中くらい	中の下	下の方
塾に行っている			45.4	19.2	9.1
塾に行っていない			45.8	17.5	14.7

表1 通塾状況×中学受験

	(%)		
	さっとする	たふんする	わからない
塾に行っている	11.1	8.9	30.4
塾に行っていた	5.9	6.3	36.7
塾に行ったことがない	4.1	6.1	34.1

表2 通塾状況×母親のしつけ(「勉強しなさい」と言う)

	(%)			
	どけい	たまに	あまり 言わない	ぜんぜん 言わない
塾に行っている	38.6	35.1	18.1	8.2
塾に行っていた	32.1	35.7	21.9	10.3
塾に行ったことがない	25.8	35.3	25.2	13.7

◆ 塾のタイプ ◆

学習塾と一口に言っても、目的によって塾の種類が異なっており、このところ塾の多様化が進んでいる。すなわち大別すると、学校の子習や復習をするための補習塾、中学校を受験するための進学塾、そしてそれ以外の「くもん式」の塾などの、特に受験や学校の進度を意識していない塾である。

本サンプルの場合、通塾者のうちその内訳は、補習塾6割、進学塾が2割、そしてその他が2割となっていた(図12)。そしてそれぞれの塾に行っている子たちの、学校の成績と学校での授業中の理解度を比較したのが図13、図14である。進学塾は、学校の勉強がほしい理解できている成績のよい子が、中学校を受験するために通っているのに対し、補習塾の方は特に成績のよい方、悪い方ではなく中間層が、文字通り学校の勉強の補習のために塾に行っているという印象を受ける。

また塾に入るためにテストを行ったかどうかについては、図15のように、テストを受けたのは通塾者全体では4分の1、進学塾では

54%と半数以上に達していた。

そして塾でのクラスは、図16に示したように、全体としてはクラスに分かれていない塾に行っている子が43%で、6割近くが何らかの形でクラス分けを行っている。進学塾・補習塾の別に見ると、進学塾では77%がクラス分けをされており、その分け方もテストによるものが半数となっているが、補習塾の方はクラスに分かれているものと分かれていないものが半々であった(図17)。したがって、成績上位層を中心に、こまかなクラス分けをしているのが進学塾で、それに対し、クラス分けもなくアットホームな感じが補習塾となる。

そしてクラスに分かれている場合の、1クラスの人数を示したのが図18である。補習塾では10人以下の少人数での指導を受けている子が過半数を超えているのに対し、進学塾の方は10人以下のクラスは3分の1しかなく、20人、30人といったクラスの中での勉強が中心のようである。

図12 塾の種類

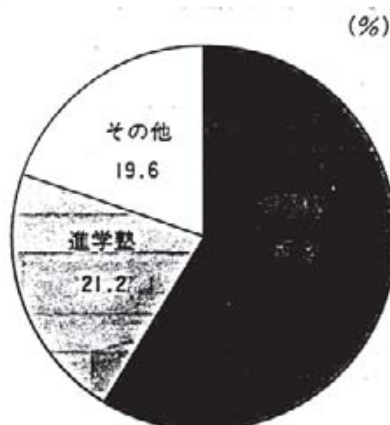


図13 塾の種類×学校の成績

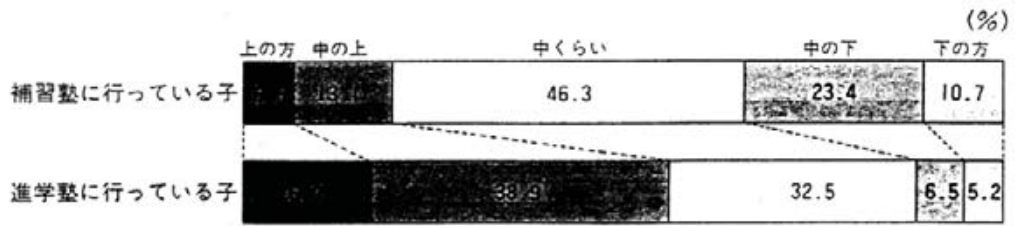


図14 塾の種類×学校の勉強の理解度

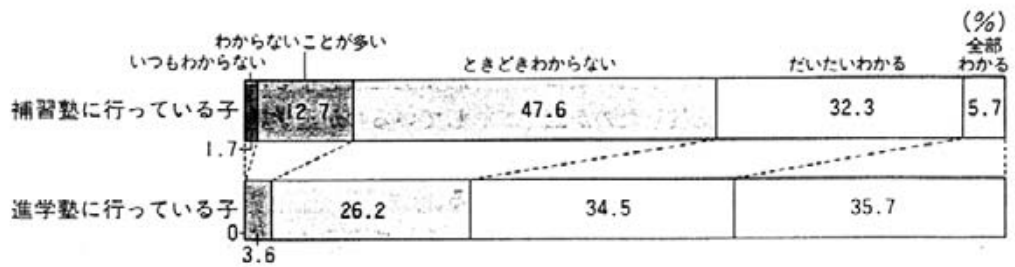


図15 入塾テスト

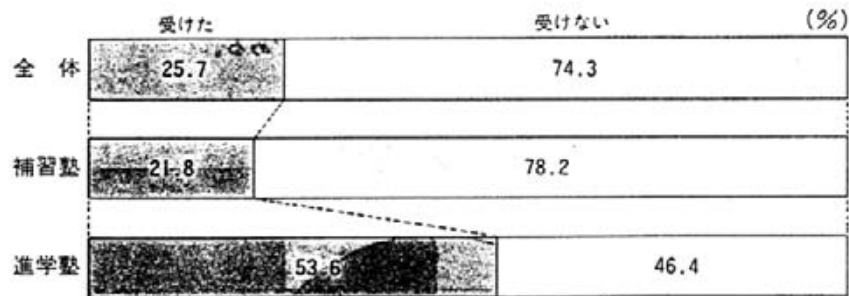


図16 塾のクラス分け

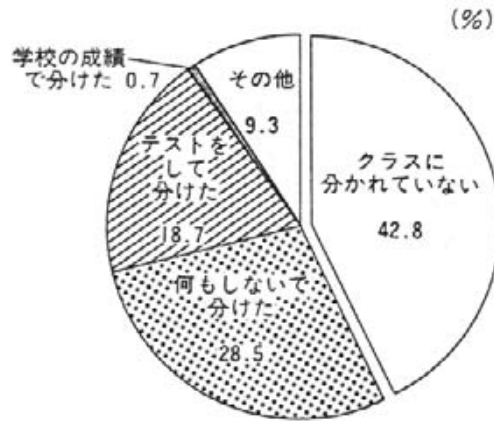


図17 塾の種類×クラス分け

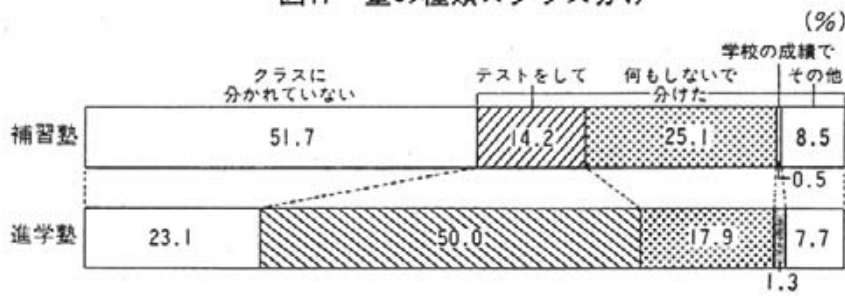
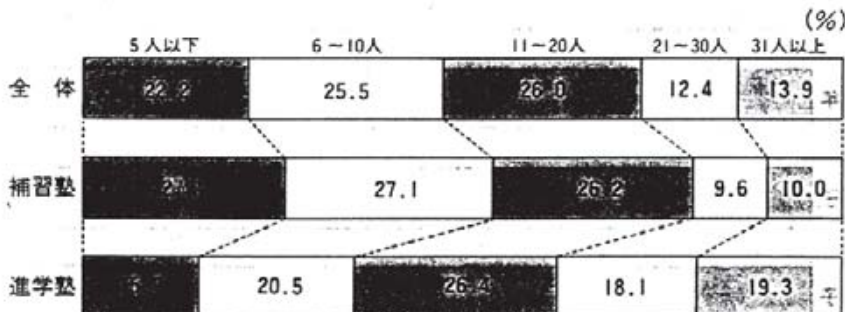


図18 塾の種類×1クラスの人数



◆ おけいごと ◆

勉強だけを習う学習塾とは別に、スポーツや音楽、あるいは習字やそろばんなども、広い意味での塾に含まれるであろう。

このおけいごとについては図19の通り、「現在行っている」子が3人に2人の割合で、「今は行っていないが、かつて通っていた」子が2割、そろばん塾やピアノなどをはじめとしたおけいごとには「1度も行ったことがない」子は14%しかいない。

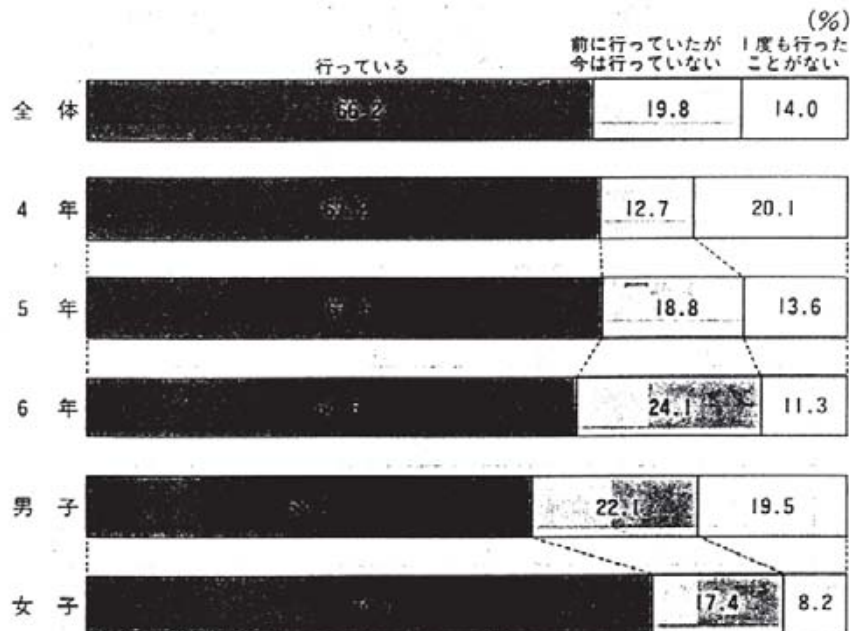
したがって全体としては、学習塾よりもおけいごとに通っている子の方が多い（図9参照）。しかし学年別に見た場合、学習塾の方は学年とともに通塾率が増加していた（図10）が、おけいごとの方はというと、少しずつではあるが減っていき、特に5年から6

年に上がるときに習いごとをやめてしまう傾向が見られる。また男女では、女の子の方がおけいごと通いをしている割合がかなり高い。

学習塾の方は、成績の中・上位層が通っていたが、おけいごとと学業成績の関係については図20に示したように、おけいごとには全く行ったことのない子（全体の14%）には成績の下の方の子が多い。おけいごとへ行くのにもある程度の学力が求められるのであろうか。

また学習塾とおけいごとを合わせてみると、表3のように、両方に通っている子が全体の27%、両方とも行っていない子が25%と4分の1ずつで、4割がおけいごとだけに、

図19 おけいごと通い



残りの2割弱が学習塾だけに行っているということになる。すなわち、4人に3人は何らかの「塾」に行っているわけで、忙しい子どもたちの放課後の様子がうかがえるようである。

またおけいごとの内容は図21のように、「現在通っている」もののトップが「習字」で、「そろばん」「ピアノ」「英語などの外国語」と続き、「野球」「水泳」「サッカー」な

どが上位を占めている。また「以前通っていたがやめてしまった」ものに「水泳(スイミングスクール)」が多く、おそらく小学校の低・中学年までに行き、泳げるようになったらやめてしまうのであろう。しかしこうしておけいごとの種類を見ても、「習字」「そろばん」「外国語」などの勉強に近いものや、勉強に役立つものが多いというのも見のがせないことである。

図20 学校の成績×おけいごと通い

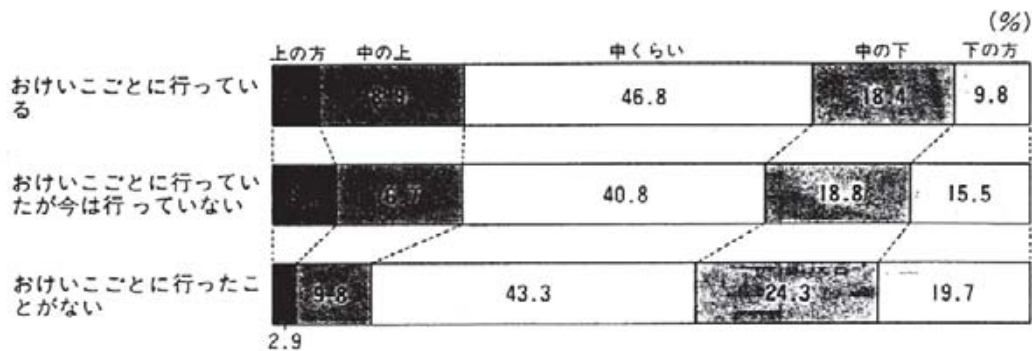
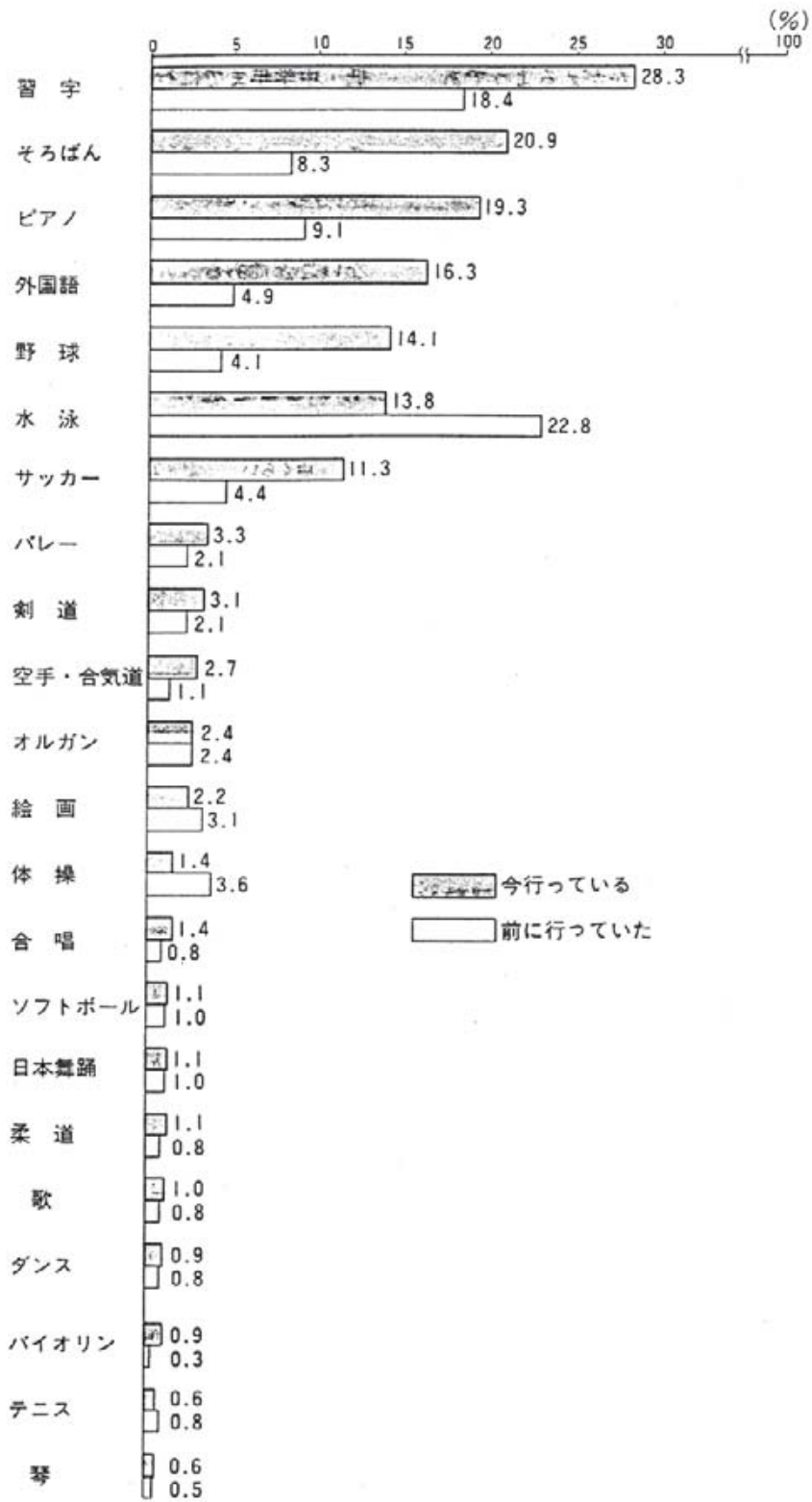


表3 学習塾×おけいごと通い

		おけいごと (%)	
		通っている	通っていない
学習塾	通っている	26.7	18.6
	通っていない	39.4	25.3

図21 おけいこごとの種類



3. 子どもにとっての塾



さてこの章では、学習塾に現在通っている子どもと通っていない子どもに分けて、彼

らにとって塾が意味するものを明らかにしていきたいと思う。

◆ 塾に行く理由・行かない理由 ◆

まず学習塾に行っている子に、行くようになったきっかけについて聞いてみた。図22にあるように、「家の人に言われたから」がトップで、「とてもそう」と「わりとそう」を合わせると半数を超える。「ただなんとなく」や「友だちが行っているから」というのも3割近くいるが、とにかく通塾に関しては母親の影響が強いのであろう。

図23は、塾に行くのを誰が決めたかを表している。自分自身と母親が半々であったが、学年とともに、母親に言われて行くようになった子が減り、自分自身で塾に行こうと決心した子どもが増えているのがわかる。

その他、行っている塾のタイプや学校の成

績によっても、通塾の決定者に違いが見られる。図24、図25のように、進学塾と補習塾とでは補習塾の方が、また学校の成績を上・中・下と分けると上位の方が下位者よりも、自分で塾に行くことを決めた者がわずかながら多い。すなわち、中学を受験したいと考える成績の上の方の子は、自分で進学塾へ行くことを考え、反対に成績のあまりよくない子は、母親が心配して成績を少しでも上げようと進学塾へ通わせるというのが、一般的な塾通いの姿なのであろう。

さて、そのようなきっかけで塾に行くようになった子どもたちが、今塾に行っているわけは何なのだろうか。図26によると、「勉強

図22 塾に行くようになったきっかけ

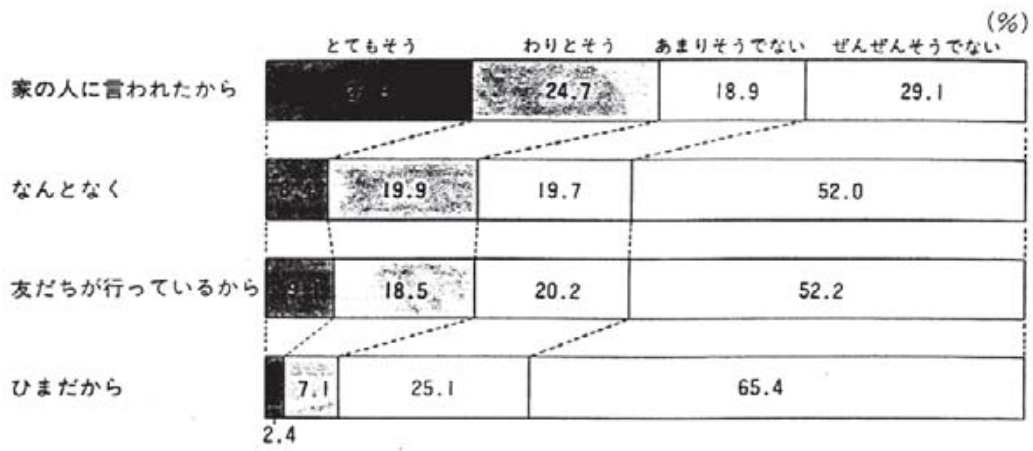
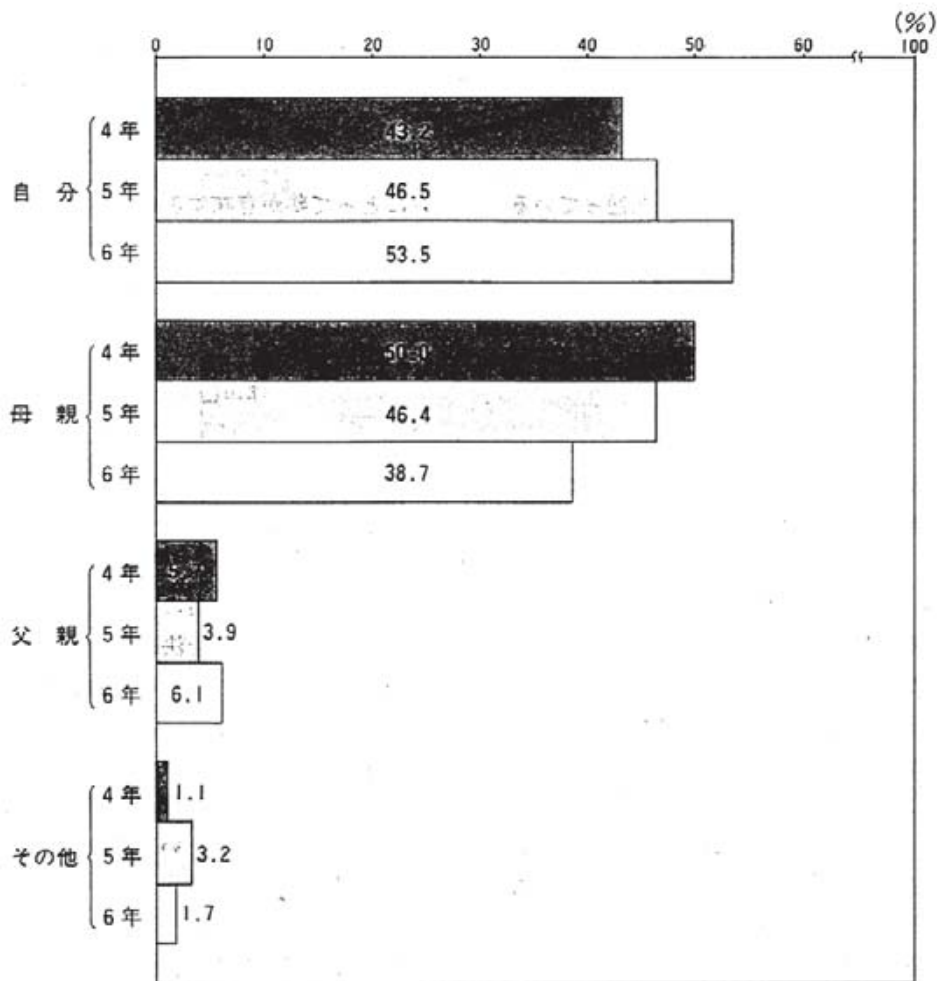


図23 通塾決定者



がわかるようになるため」「学校の成績を上げるため」という回答が多く、「学校よりもっと難しいことを習いたいから」や「中学校を受験するかもしれないから」を上回っている。

そして今度は逆に、学習塾に行っていない

子に、どうして塾に行っていないのかを尋ねてみた。「遊べなくなるといやだから」「もう少し大きくなってから行けばいいから」が主な理由のようで、「塾に行かなくても勉強ができるから」とか「勉強がきらいだから」ではないようである(図27)。

図24 塾の種類×通塾決定者

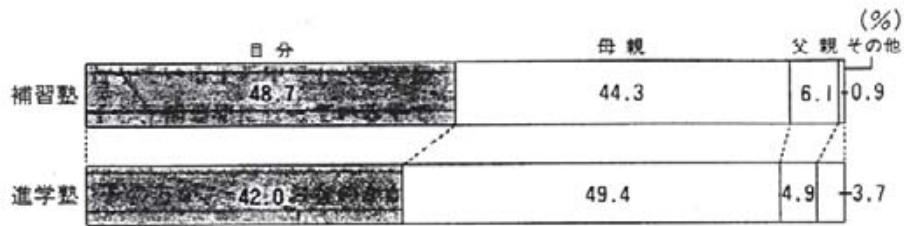


図25 学校の成績×通塾決定者

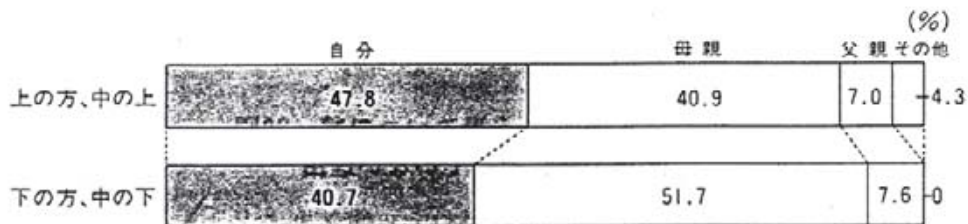


図26 塾に行っている理由

	とてもそう	わりとそう	あまりそうでない	ぜんぜん そうでない
学校の勉強がわかるようになるため	20.5	38.4	24.6	16.1
学校の成績を上げるため	15.2	35.6	27.2	21.0
行かないよりはいいから	3.2	34.2	30.2	23.8
学校よりもっと難しいことを習いたいから	10.1	15.9	45.4	28.6
中学校を受験するかもしれないから	3.0	12.6	27.3	47.1
友だちがたくさんいるから	0.2	13.3	43.4	36.6

図27 塾に行っていない理由

	とてもそう	わりとそう	あまりそうでない	ぜんぜん そうでない
遊べなくなるといやだから	7.9	31.1	33.7	17.3
もう少し大きくなってから行こうと思うから	15.5	32.6	26.5	25.4
行かなくても勉強ができるから	5.8	22.3	44.5	27.4
勉強がきらいだから	3.0	19.3	49.8	22.5
お金がもったいないから	0.2	11.3	36.4	44.1

◆◆ 子どもの学習塾観 ◆◆

それではそのような子どもたちは、塾についてどう思っているのだろうか。まず塾に行っている子に聞いた結果が、図28である。「中学生になっても塾に行きたい」という子が6割、「塾がなくなったら困ってしまう」子が4割と、かなり塾に対しポジティブな感情をもっていることがわかる。

そして塾に行っている子の中でも、進学塾に行っている子と、補習塾に行っている子では、彼らの塾観にも違いが見られる(図29)。進学塾通いの子の方が、「塾はお金のかかる場所」という意識が高く、また「塾は中学校を受験するためにはなくてはならないもの」ということも、進学塾に行っている子の半数以上が感じている。それに対し補習塾へ通っている子は、進学のためというより、のんび

りと塾通いをしている印象を受ける。

また、塾に行くことを自分で決めた子どもは、母親に言われて塾通いを始めた子に比べ、塾の効果や必要性をより感じているといえる(図30)。

そして、塾に行っていない子の場合、図31のように、「塾に行くとお金がかかってたいへん」だから、「中学生になったら塾に行きたい」と思っているようで、「塾に行かないと中学校に入れない」とか、「塾がなくなったら困る」というほどは塾を評価していない。

そして見やすいように、塾に行っている子と行っていない子でその肯定率を比較すると、図32のようになる。やはり実際に塾に行っている子の方が行っていない子よりも、全体に塾の評価が高いことがわかる。

図28 塾について思うこと(行っている子)

	とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう思わない
中学生になっても塾に行きたい	59.3	37.0	26.3	13.9
お金がかかってたいへんだ	40.1	37.4	29.7	12.9
塾がなくなったら困る	32.2	27.5	41.6	16.3
塾でもっと難しいことを教えてほしい	20.1	18.5	47.0	22.9
塾に行かないと行きたい中学校に入れない	12.2	38.7	38.6	

図29 塾の種類×塾について思うこと

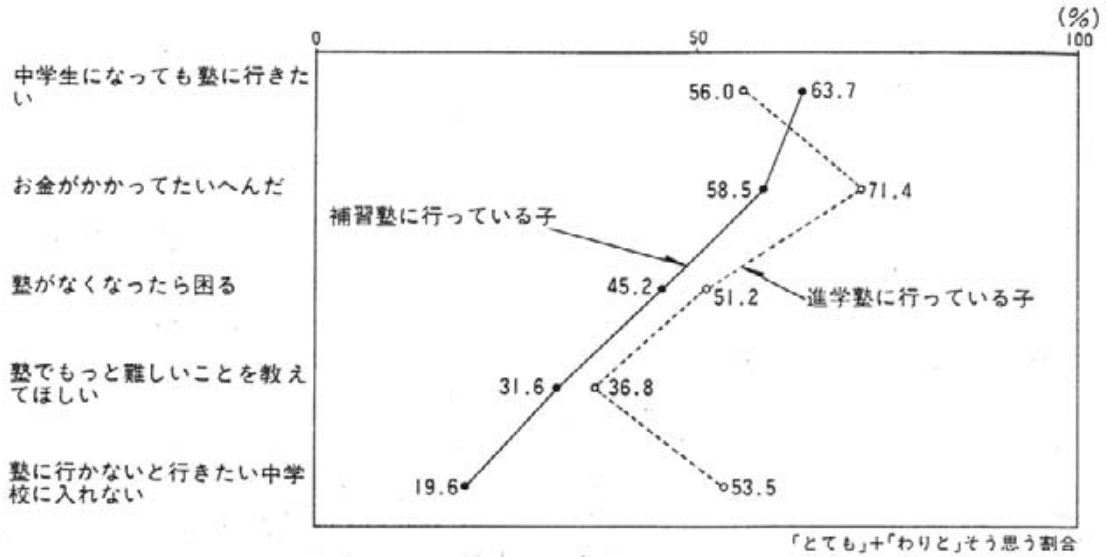


図30 通塾決定者×塾について思うこと

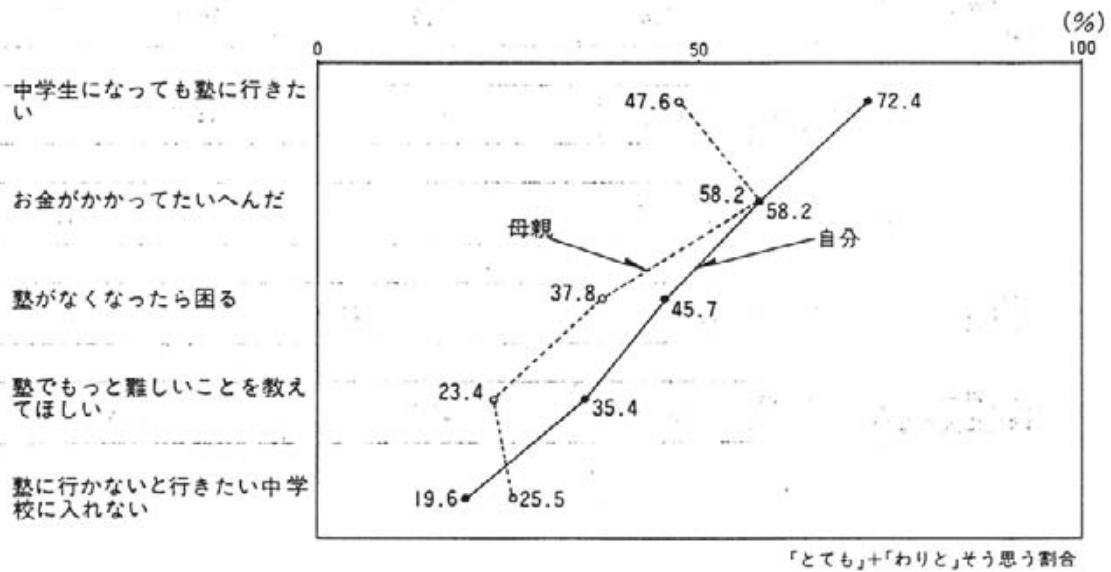
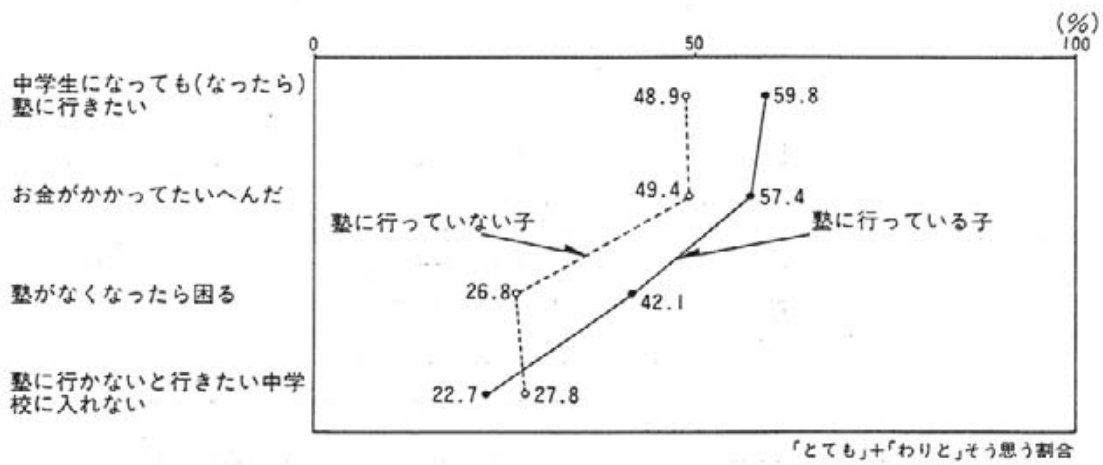


図31 塾について思うこと(行っていない子)

	とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう思わない	ぜんぜんそう 思わない
お金がかかってたいへんだ	5.5	33.9	32.1	18.5
中学生になったら塾に行きたい	6.6	30.3	28.9	22.2
塾に行かないと行きたい中学校に入れない	8.8	19.0	42.9	29.3
塾がなかったら困る	20.3		44.8	28.4

図32 通塾の有無×塾について思うこと



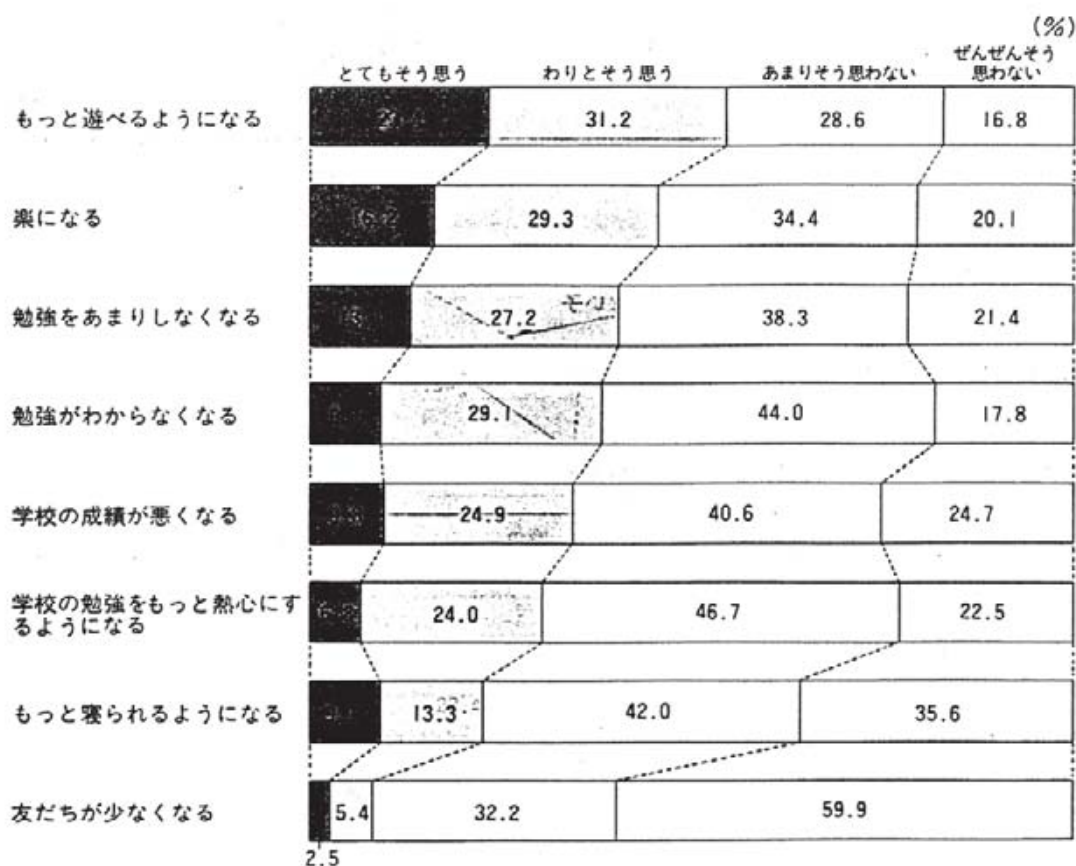
◆ ◆ 塾をやめたら(塾に行ったら) ◆ ◆

今通っている学習塾を、やめてしまったらどうなるだろうか。それについて尋ねたのが図33である。さすがに「今よりもっと遊べるようになる」がトップで過半数を超え、次に「楽になる」が46%と続いている。やはり塾通いによって一番犠牲になっているのは、遊ぶ時間ということになるだろう。

しかしこれもまた図34のように、行っている塾の種類でその気持ちも異なっている。どちらも、塾をやめたら「もっと遊べるように

なる」だろうと思っていることに変わりはないが、補習塾タイプの子は塾をやめてしまったら、「勉強をあまりしなくなり」、「勉強がわからなくなってしまう」と言っているのに対し、進学塾タイプは「今より楽になり」、「もっと寝られるようになる」と答えている。このように補習塾へ通う子はなんとなくゆとりが認められるのに、進学塾の方にはかなり勉強のハードさが感じられる。また進学塾派の42%が、塾をやめたら「学校の勉強をもっと

図33 塾をやめたら(行っている子)



熱心にするようになる」と思っているのも、興味深いことである。

また逆に、塾に行っていない子どもに「塾に行ったとしたら」という質問をすることによって、塾への認識を調べてみた。結果は図35のように、まわりの塾に行っている友だち

を見てそう思うのか、「勉強がもっとわかるようになるだろう」とし、「学校の成績が上がるだろう」と思う反面、「遊べなくなり」、「ゆっくりできなくなるだろう」という心配があるのも事実のようである。

図34 塾の種類×塾をやめたら

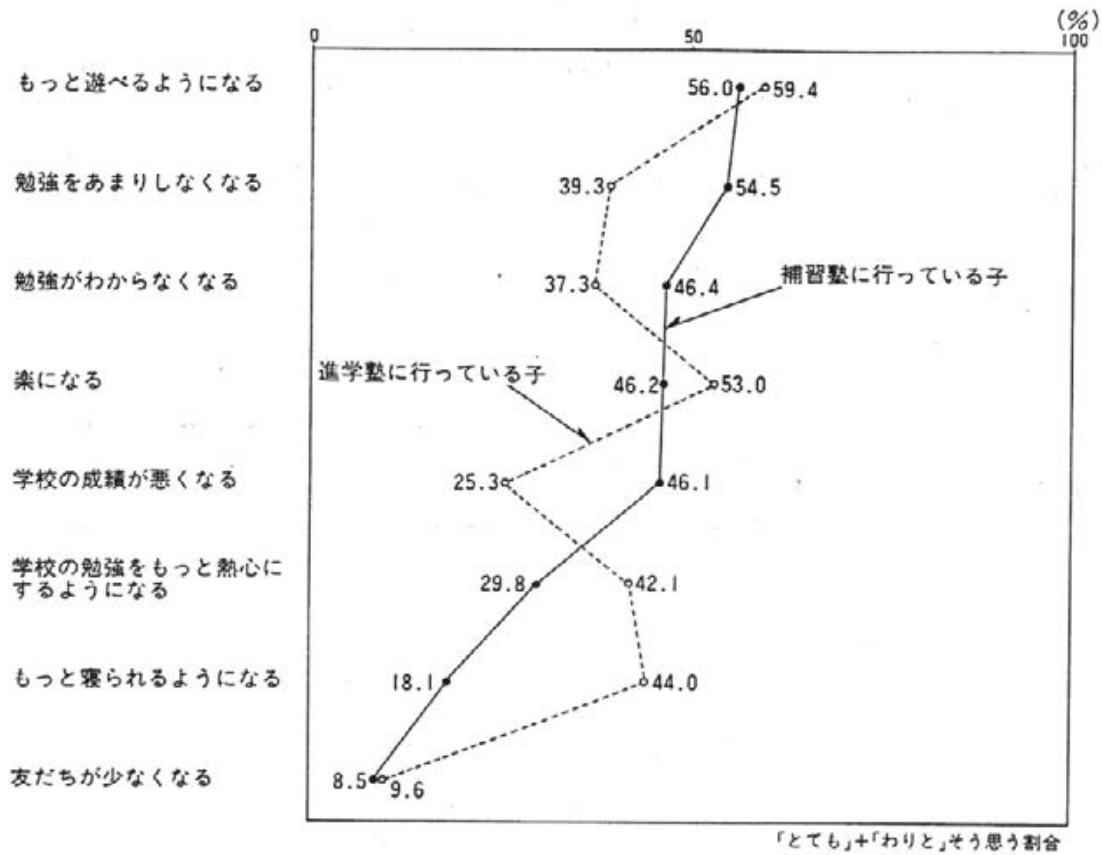


図35 もし塾に行ったとしたら(行っていない子)

	(%)			
	とてもそう思う	わりとそう思う	あまりそう 思わない	ぜんぜんそう 思わない
勉強がわかるようになるだろう	2.5	47.6	23.8	7.1
遊べなくなるだろう	25.8	39.1	25.4	9.7
学校の成績がよくなるだろう	1.3	45.6	32.8	7.3
ゆっくりできなくなるだろう	27.8	37.1	30.7	10.4
勉強をもっとするようになるだろう	5.1	38.7	36.7	13.1
寝る時間が少なくなるだろう	10.1	22.3	40.9	26.7
学校の勉強をあまりしなくなるだろう	5.6	12.1	49.9	32.4

4. 塾の功罪



塾に行っていない子たちにとっては、塾に行けば勉強できるようになると思えるようだが、実際に学習塾に通っている子どもたちは、

どのくらい塾での勉強をこなしているのだろうか。

◆◆ 塾での勉強 ◆◆

まず塾での勉強がどのくらいわかっているのかを示したのが、図36である。「いつもわからない」「わからないことが多い」「ときどきわからない」と否定的な回答をした子が4割で、残りの6割は「全部・だいたいわかる」と答えていて、かなり全体的に理解度が高いように感じられる。

補習塾・進学塾別に見ると、図37のように、進学塾派が特に塾での勉強をしっかりと理解

しているようである。

そこで塾に行っている子だけについて、学校と学習塾の勉強の理解度を比較してみたのが、図38である。「全部わかる」あるいは「だいたいわかる」子が、学校で44%、塾59%で、塾の授業の方が平均的によく理解されているといえる。

また塾での成績の自己評価は、図39の通りで、どちらかというと上位の方に傾いている。

図36 塾での勉強の理解度

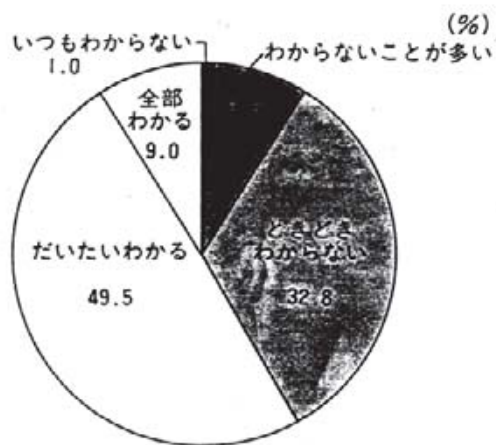


図37 塾の種類×塾での理解度

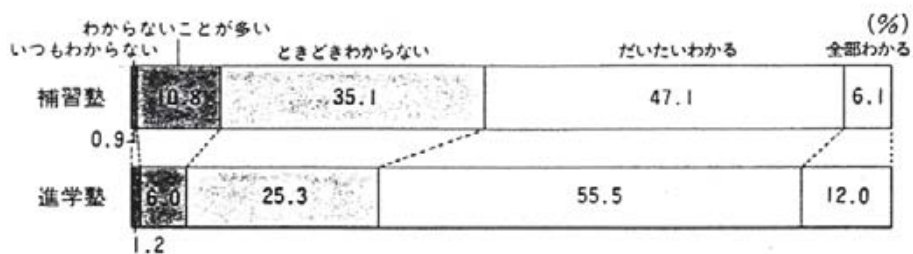
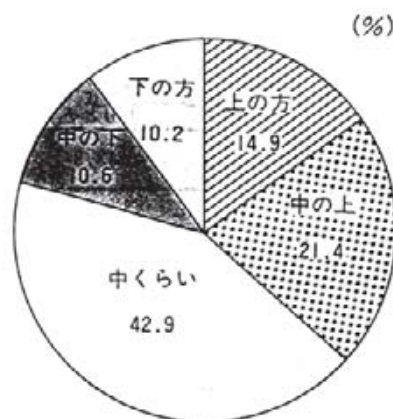


図38 授業の理解度(塾に行っている子)

	わからないことが多い いつもわからない	ときどきわからない	だいたいわかる	全部わかる
学校の勉強	8.9	45.9	34.1	9.7
塾の勉強	7.7	32.8	49.5	9.0

(%)

図39 塾での成績



◆ 塾での気持ち ◆

子どもたちは塾に行っているとき、どんな気持ちでいるのだろうか。図40のように「なんとなく楽しい」「新しい友だちができてうれしい」と、雰囲気的に楽しさを感じ、勉強面でも「どんどん進むのでおもしろい」という子が5割弱で、「勉強が難しいのでわからない」ということには、2割しか反応していない。このようにまわりのおとなたちが思うほど、子どもたちは学習塾というものをネガティブな目でとらえてはいないように見える。

また学習塾でも、補習塾より進学塾に通う子の方が、また母親に言われて塾に行くようになった子よりも自分で行くことを決めた子の方が、塾に対してよりポジティブな気持ちをもっていることがわかる(図41、図42)。

正直なところ、学習塾は遊び場ではないのだが、友とのふれ合いの乏しい現在だけに、勉強のためであっても友だちに会える、だから塾通いもまた楽しいのであろうか。

図40 塾に行っているときの気持ち

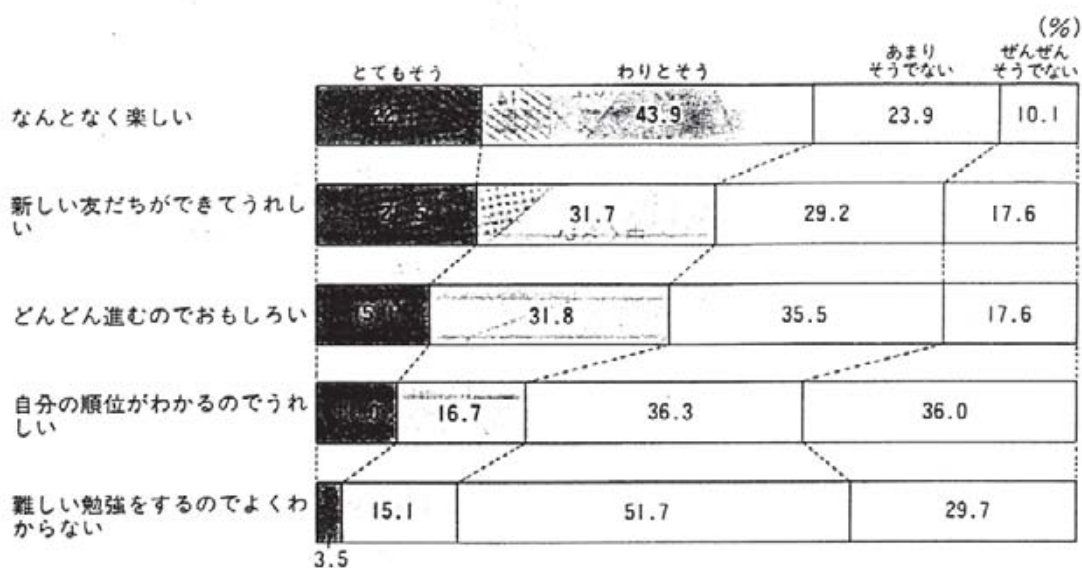


図41 塾の種類×塾での気持ち

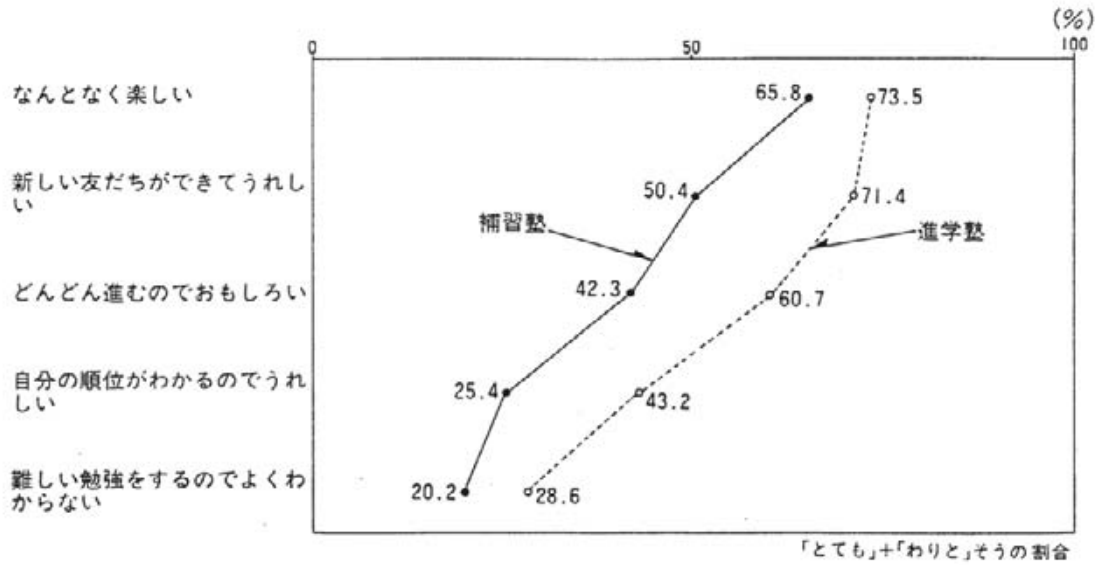
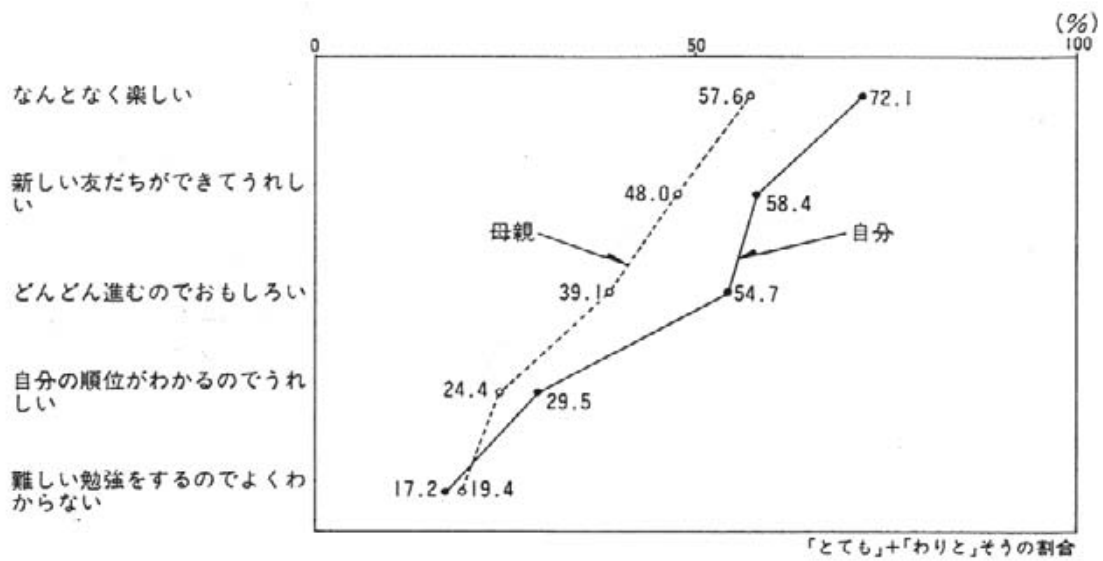


図42 通塾決定者×塾での気持ち

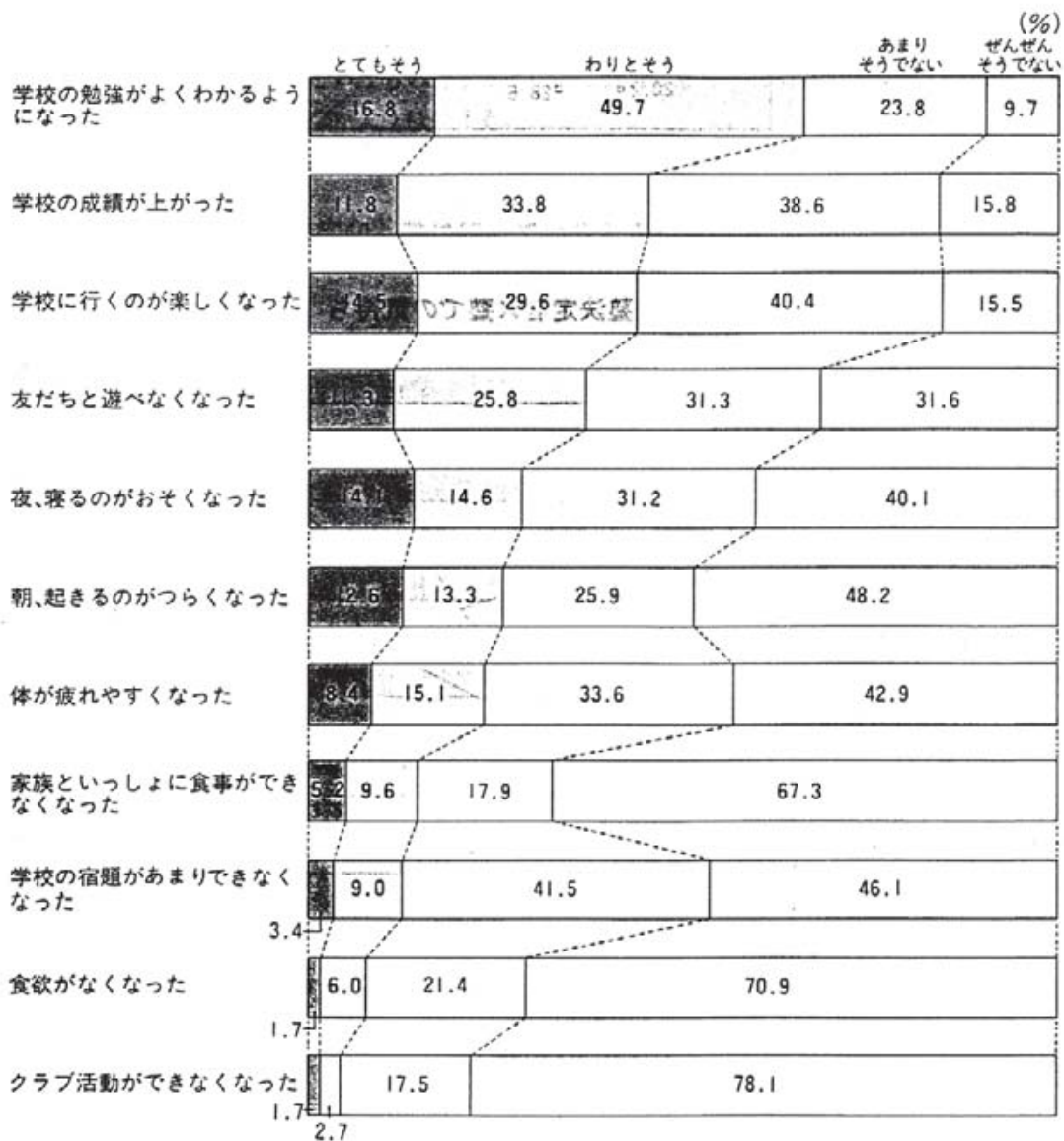


◆ 通塾による変化 ◆

子どもたちは塾に行くようになって、どのような変化が起きただろうか。図43のように、「学校の勉強がよくわかるようになった」は「わりと」を含めると3分の2以上、「学校の成績が上がった」も46%の肯定率である。もちろん「とても上がった」は12%にとどま

っており、それほどの効果は上がらないのであろう。いずれにせよ、勉強ができるようになったためか、「学校に行くのが楽しくなった」子ども44%いるが、その反面「友だちと遊べなくなった」(37%)という弊害も認めている。

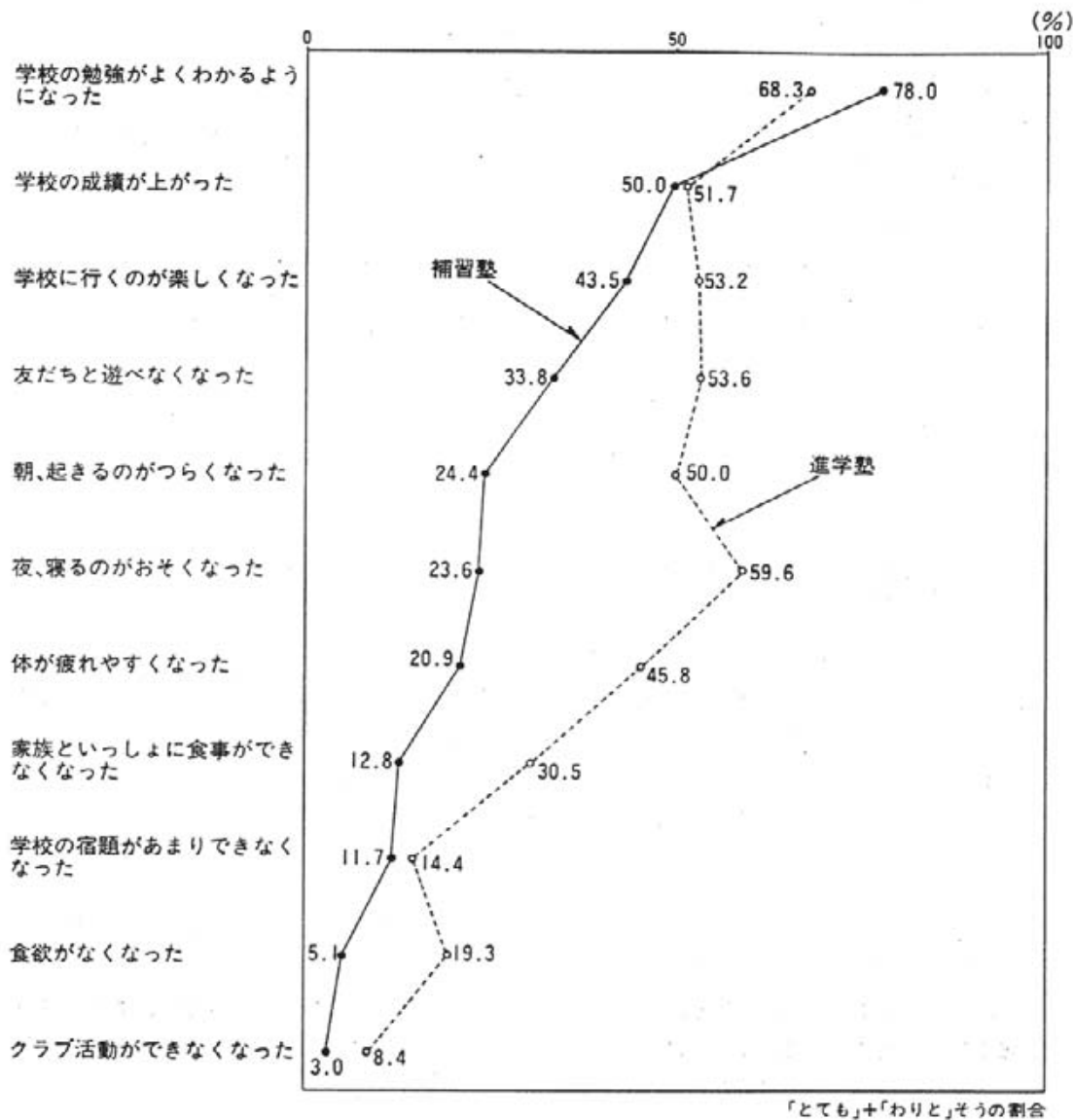
図43 通塾による変化



塾の種類によっては図44のように、進学塾に通っている子に、「朝、起きるのがつらくなった」(50%)、「体が疲れやすくなった」(46%)、「食欲がなくなった」(19%)などの体の不調感を訴える子が多い。短期間ならともかく、通塾する期間が長びくにつれて、子どもたちの心身ともに疲労が蓄積してくるのである。さらに、物理的にも「寝るのがお

そくなったり」、「友だちと遊べなくなったり」、「家族といっしょに食事ができなくなったり」と、塾通いによっていろいろなことを犠牲にしているのも、否めない。ということは、塾通いは子どもの生活全体にさまざまな重みをもたらしているのであって、勉強をするのだから塾通いはよいというだけではないものを感じる。

図44 塾の種類×通塾による変化



5. 学校と塾



それでは最後に、学校と学習塾を比較しながら、学校と塾のもつ意味について考えていきたい。

◆ 学校と塾の様子 ◆

図45は、学校での様子と塾での様子それぞれについて尋ねた結果である。「まわりの友だちと仲がよい」「楽しい」「自由にのびのびやっている」「まわりの友だちに好かれている」など、学校の方が全体により雰囲気であることを表している。

またこれを、塾に行っていない子と、塾でも進学塾に行っている子と補習塾に行っている子のそれぞれに分けて、回答を比べたのが図46である。塾に行っていない子は、塾の様子が「楽しい」とか「自由にのびのびやっ

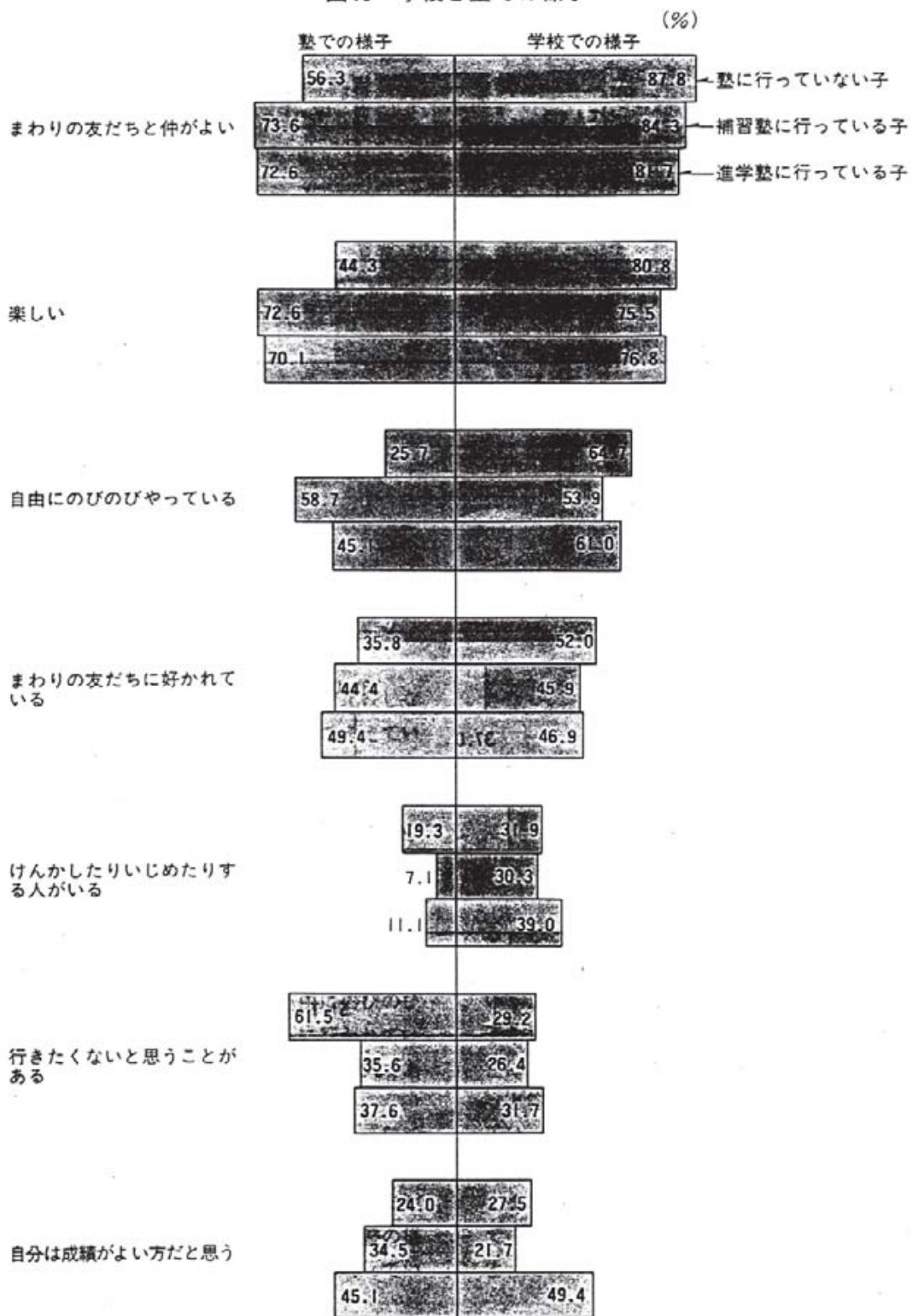
る」ということに対する反応が少ない。逆に「行きたくないと思うことがあるだろう」ということに対しては、実際に塾に行っている子たちが36～38%しか肯定していないのに、塾に通っていない子の6割以上がそうであろうと答えている。したがって通塾していない子は、塾にあまりいい印象をもっていないようである。

また進学塾より補習塾の方が、より「自由でのびのび」した環境として感じられているようであった。

図45 学校での様子・塾での様子

		%			
		とてもそう	わりとそう	あまりそうでない	ぜんぜんそうでない
まわりの友だちと仲がよい	(学校)	35.3	51.0	10.7	-2.7
	(塾)	21.5	41.6	28.5	9.4
楽しい	(学校)	36.0	45.6	15.9	4.1
	(塾)	19.4	38.6	31.6	13.2
自由にのびのびやっている	(学校)	20.6	41.0	29.8	8.6
	(塾)	12.5	25.6	42.6	19.3
まわりの友だちに好かれている	(学校)	7.5	43.0	40.4	9.1
	(塾)	6.8	32.2	44.9	16.1
けんかしたりいじめたりする人がいる	(学校)	10.8	20.9	39.0	29.3
	(塾)	4.5	10.5	37.0	48.0
行きたくないと思うことがある	(学校)	8.3	18.9	39.2	33.1
	(塾)	7.8	33.4	31.0	17.8
自分は成績がよい方だと思う	(学校)	4.2	23.3	53.7	18.8
	(塾)	5.4	24.7	51.7	18.2

図46 学校と塾での様子



◆ 学校の勉強・塾の勉強 ◆

また学校と塾で、やっている勉強のことに
ついて比較したのが図47である。「ていねい
に教えてもらえ」、「友だち同士でわからない
ところを教えあい」、「授業が楽しい」のは学
校の方であるが、「授業の進み方がはやく」、
「宿題やテストが多く」、「勉強する内容が多
い」のは学習塾の方である。言い換えると、
学校はみんなて楽しく、塾はひたすら勉強重
視ということなのであろうか。

また図48のように、塾に行っている子に比
べて行っていない子は、塾の授業が学校の授
業より断然「楽しくないもの」と想像してい
るようであった。

また進学塾と補習塾で大きく違っていると
ころは、「テストや宿題が多く」、「授業の進
み方がはやい」のは進学塾の方で、補習塾は
その点、学校とあまり変わらない。

◆ 学校の先生・塾の先生 ◆

最後に、ちょっと気になる先生同士の比較
を行ってみた。図49に示したように、「一生
懸命教えてくれ」、「心が優しく」、「尊敬でき」、
さらには「気軽に話ができ」、「自分のことを
よく理解してくれ」、「先生のことよく知っ
ている」のは、やはり圧倒的に学校の先生の方
である。

しかし図50のように、学校の先生の評価に
ついてはほぼ同じだが、塾の先生のイメージ
については、塾に行っていない子だけが特に
悪いのである。塾に行っている子たちは「一
生懸命教えてくれたり」、「心が優しく」、「気
軽に話せる」ということに関して、学校の先
生よりむしろ塾の先生の方を高く評価してい

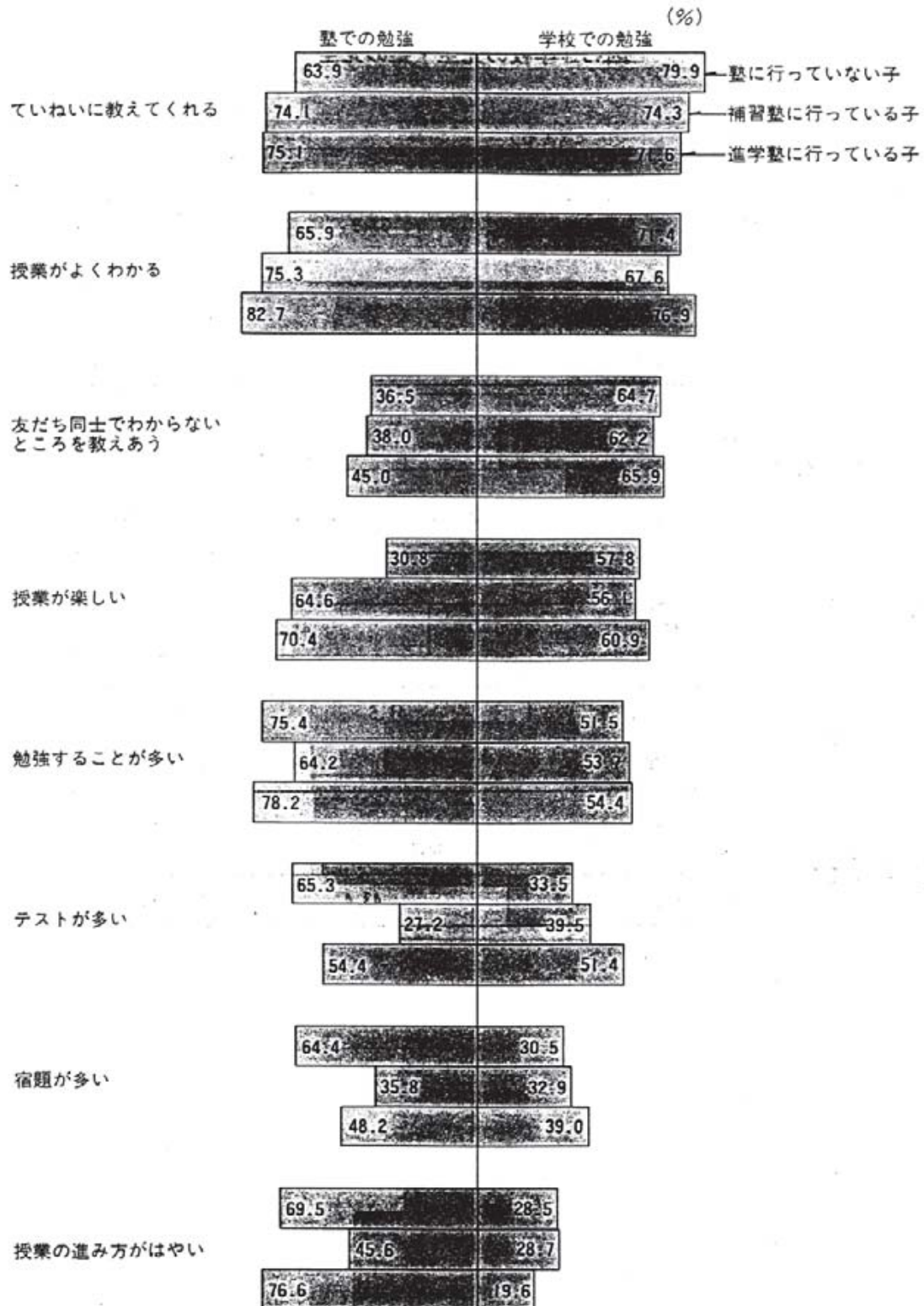
る。

したがって、塾の姿を知らない子どもたち
にとっては、学習塾というところは勉強ばかり
して、ゆとりのない、先生とのコミュニケー
ションもあまりない世界のように思っている。
しかし、実際に塾に行っている子どもたちは、
学校の存在をそれなりに認めながらも、塾に
もそれなりのふれ合いがあるのを認め、特
にそうした傾向は進学塾に著しい。しかし
そうした進学塾の子ども、心身ともに疲れて
いたのは、すでにふれた通りで、それだけに
塾の問題については、さまざまな影響を視野
に入れ、トータルとしてとらえて論じる態度
が望まれよう。

図47 学校での勉強・塾での勉強

		とてもそう		わりとそう		あまりそう でない		ぜんぜんそう でない		(%)
ていねいに教えてくれる	(学校)	25.6	52.0	17.8						-4.4
	(塾)	27.1	41.1	23.3						
授業がよくわかる	(学校)	20.4	51.1	24.6						-3.9
	(塾)	22.6	45.4	24.5						
友だち同士でわからないところを教えあう	(学校)	20.1	44.5	25.9						
	(塾)	12.1	24.2	36.1						
授業が楽しい	(学校)	15.3	44.1	32.2						
	(塾)	13.2	32.5	38.4						
勉強することが多い	(学校)	15.9	37.8	39.5						
	(塾)	32.3	36.7	22.7						
テストが多い	(学校)	8.1	26.7	55.3						
	(塾)	21.4	28.8	29.5						
宿題が多い	(学校)	10.2	20.1	54.6						
	(塾)	25.1	30.2	28.4						
授業の進み方がはやい	(学校)	7.2	21.1	57.2						
	(塾)	28.6	31.2	29.1						

図48 学校と塾での勉強



「とても」+「わりと」その割合

図49 学校の先生・塾の先生

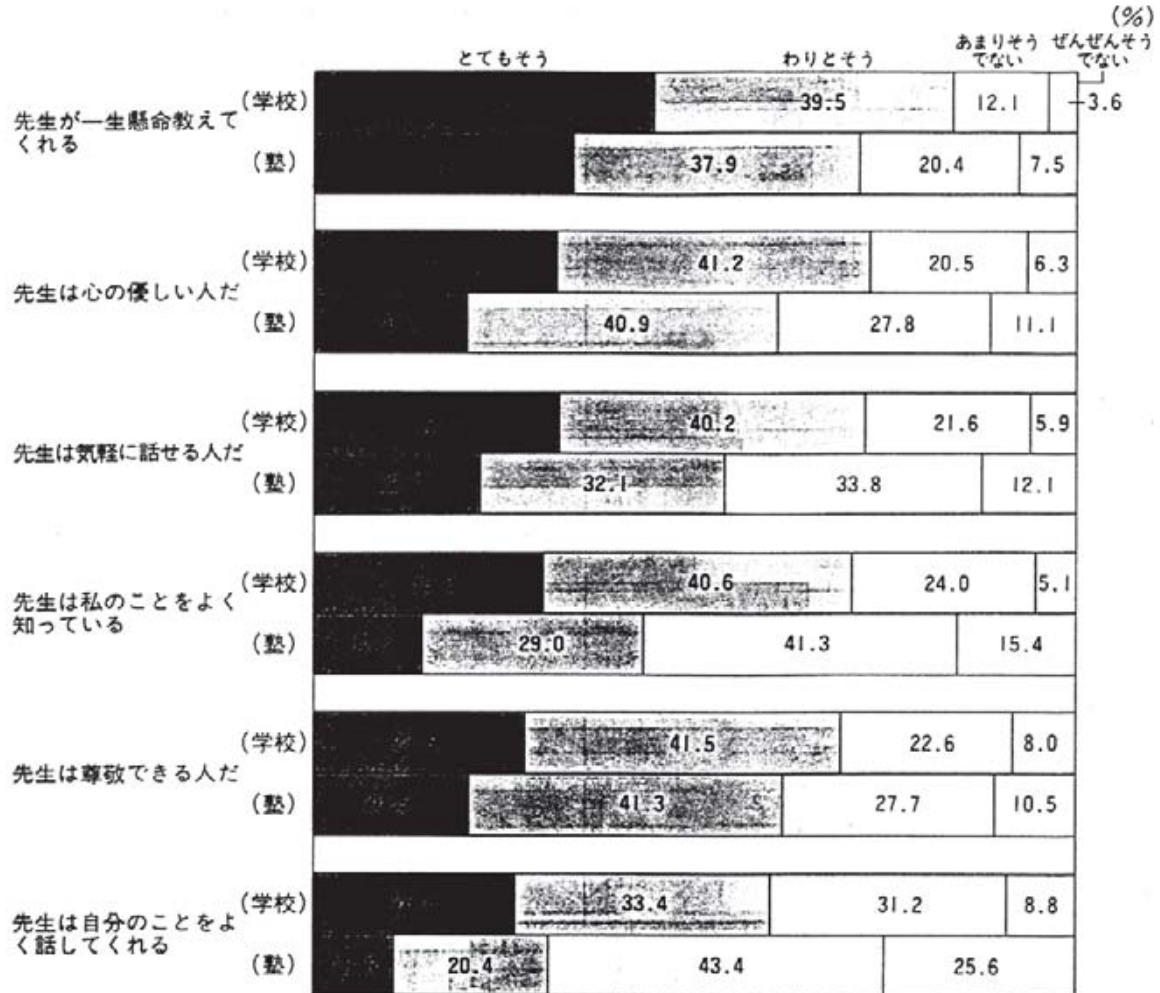


図50 学校と塾の先生

